

安芸市事前復興まちづくり ワークショップニュース

赤野地区 第1回(令和8年7月26日開催)

7月26日(日)、赤野公民館で「赤野地区事前復興まちづくり計画策定 第1回ワークショップ」を開催しました。グループワークに先立って、過去の大規模災害からの復興事例を紹介し、「復興まちづくり」のイメージを共有しました。

赤野地区の将来のまちづくりを検討するにあたって、第1回のワークショップでは、3つのグループに分かれて地区の「これまで」や「現在」のこと、「取組に対する率直な意見」、などについて意見を交換しました。

事前復興まちづくり計画とは？

これまで安芸市では「命を守る」対策として、津波避難タワーや避難路の整備、「助かった命をつなぐ」対策として、避難所運営マニュアルの作成など、住民の皆さんと一緒に取り組んできました。「事前復興まちづくり計画」は、南海トラフ地震による被災後、一日でも早く復興に向けた取り組みを始めるために、復興後のまちの姿を事前に検討しておくものです。

この計画と、これまでの取組をつなげることで、地域に住み続けられる「安全安心」と「持続可能性」を高めていくことが目的です。

南海トラフ地震の発生

これまでの取組

命を守る

- 強い揺れに対する備え
- 津波からの避難 など



助かった命をつなぐ

- 避難所の開設と運営
- 外部からの支援の受入など



これからの取組

復興まちづくりについて、
事前に皆様と一緒に
考える

生活を 立ち上げる

復興まちづくり

- 安全なまちづくり
- 仮設から恒久的な住まいの確保
- 教育や福祉、暮らしの再建
- なりわいの再生 など

ワークショップテーマ

事前復興まちづくり計画を作成するにあたって
地区の「これまで」や「現在」、「取組に対する意見や感想」

●地域の特性

地区の現状

- 主な産業はハウス栽培だが、震災を機に離農が増加するおそれがある
- 高知市へ通勤が容易で居住地としての立地条件が良い
- 地区の運動会など地域交流の場となっている
- 叶岡前などは高齢化が進行しており、集落によって防災意識に差がある
- 耕作放棄地や竹林等を防災用地に活用する余地がある一方、平坦な土地が少ない

困っていること・不安なこと

- 八流・山田など盛土地盤での土砂災害が懸念されている
- 公民館周辺の液状化や、大夫屋地周辺の盛土崩落リスクがある
- 叶岡前等の砂地での家屋倒壊や、堆積平野であることによる揺れの被害拡大が不安視されている

残したいところ

- 大元神社、住吉神社、仙頭城跡、常願寺、観音様などの歴史的資源



●津波避難・避難所確保

地区の現状

- 高台は地盤が比較的強固
- 赤野小児童の避難経路は道が狭く老朽家屋も多いため、西側への迂回を想定している
- ビニールハウスを一時的な避難場所に活用する案がある

困っていること・不安なこと

- 避難所が津波浸水想定区域内にあり、1階浸水時に3階の備蓄品を取りに行けるか不安がある
- 避難経路にある橋の崩落リスクや、切り立った斜面の崩壊による通行寸断が懸念される
- 和食地区への避難も道路が狭いため、災害時は通行困難になる恐れがある

これからのまちに必要なもの

- 安全な高台への公民館移転や、沿岸部居住者の高台集団移転の検討が必要
- 代替の避難所として、新たな施設建設が求められている



●社会インフラ

地区現状

- 広域農道は土砂崩れがなければ通行可能
- 山側の砂防堰堤の影響が砂浜の減少が見られる
- 国道沿いの商業衰退も懸念されている

困っていること・不安なこと

- 吉野など緊急車両が進入できないほど道路が狭い場所があり、生活に不便が生じている
- 大夫屋地北側は不整形な棚田が多く、道路拡張しても新規就農が見込めない

これからのまちに必要なもの

- 農業を継続するために、災害時の井戸水など水源・取水設備の整備
- 橋梁の耐震化に関する住民への情報周知



●計画策定の取組に対する意見

- 市有地(空き地等)は、仮設・復興住宅用地として活用できるのでは？
- 自己再建(農地・住宅)には財源支援(補助金等)と人材の確保が必要
- 農業用水路の整備が不可欠であり、支援の規模が復興の進捗を左右する



※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。

お問い合わせ先

TEL 0887-37-9101

安芸市危機管理課

FAX 0887-35-4445

E kikananri@city.aki.lg.jp

次回ワークショップ開催のご案内：令和8年11月8日(日)13:00～赤野公民館